

多摩のくらし～歳時記～茶の湯の道～

私たち日本人は古くから季節を大切にし、季節の中でさまざまな祭りや行事を営んできました。収穫への祈りや感謝のため、あるいは生活する中で喜びや悲しみのため、また花や月を愛でる趣向のための行事がありました。今の茶の湯が生まれなかった古い時代、茶は薬用として用いられ、貴重なものとして神仏にささげられました。身を清め心を込めて奉仕する献茶（神様）と供茶（亡くなられた人、仏事）となり、威儀ある儀式として残され、今に伝えられたものです。祭りや追善の祭事には利休忌（3月27日）を始め、歴代の供養もあり、それはどこの家でも行う祖先祭りと似ていますが、それなりにゆるがせにできない茶家独特の慣例があります。趣向の茶では節句や季節を愛でての催しとなります。そしてどの行事や催しにおいても主役は一服の茶であることは言うまでもありません。

茶の湯では季節も「炉」と「風炉」に分け、「口切」から一年が始まり、「名残」で終わります。利休居士が言われたように、「夏は涼しきよう、冬はあたたかきよう」心配りをしっかりとし、点（た）てるもてなしの一服であることを大切にされた分け方になっています。朝夕の涼しさがそぞろ身に染みる十月も末になると、茶つぼの茶も残り少なく、「名残り」のころとなり風炉の季節は終わります。やがてユズも色付き始めるころ、「口切」の茶事が催されます。「口切」は茶の湯の新年として重んじられ、その年に採って夏の間寝かせておいた新茶の茶つぼの口を切ります。茶人にとって最も心改まる行事といえます。そして夜長の一時を楽しむ「夜咄（よばなし）」、厳寒のころの趣向「暁の茶事」、初釜、節分や、桃の節句と春を迎える趣向も楽しいものです。（川口キン）



たまの顔

日本女子大学の皆さん

多摩区内にある3大学の一つ、「日本女子大学」の学生と地域連携の実践から、米粉スイーツ3種類が多摩区名産品として誕生しました。



米粉スイーツ「マイ・プリンセス米彦」

商品名は、「かわさき宙と緑の科学館」リニューアルを記念し、プラネタリウムとセタをイメージして、「マイ・スター米星」、「マイ・プリンセス米姫」、「マイ・プリンセス米彦」と

付けられました。コメは学生が農業体験で携わった青森県鮭ヶ沢町の「つがるロマン」を使用。

名産品づくりに携わった、日本女子大学人間社会学部教育学科のお二人（まだ1年生！）は、商品企画から販売ま

での経験を通して、「非常に短期間での開発だったため、多くの意見をまとめて形にする難しさ、一つの形になった喜びを体験し、いい勉強になりました」とのこと。

地域とのさらなる連携にも期待したいです。



左：田村さん 右：田口さん

たま今昔 区制が敷かれてから40年を経た多摩区の昔の姿を探ります

その **向ヶ丘遊園駅** (稲田登戸駅)

昔

昭和29年の駅舎
提供：川島常雄氏

今

現ホーム側も
当時は開けていた

小田急線向ヶ丘遊園駅北口（多摩区役所側）の駅舎は、小田急電鉄小田原線開業当時（昭和2年）から現存する唯一の駅舎です。二段勾配の独特な屋根はマンサード型屋根と呼ばれ、レトロな雰囲気を醸し出しています。駅舎は何度か改装されましたが、壁面の模様や社紋は残り、当時の姿を今に伝えています。

編集後記 見た目だけでなく、内容も使う紙もイメージチェンジしました。今号はその第2弾です。皆さまの心に浸透していく広報誌を目指して頑張ります！（新米編集長 河崎）

多摩区まちづくり協議会へのご意見、ご質問、プロジェクトへの参加申し込みはこちらへお願いします。

【事務局】〒214-8570
多摩区役所地域振興課まちづくり推進係
電話 935-3148 FAX 935-3391
メール 71tisin@city.kawasaki.jp



多摩区まちづくり協議会は、区民の自主的なまちづくり活動組織です。区民が取り組む地域活動を、年4回発行でお知らせしています。

私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS 2012年 (平成24年)10月

37号



多摩の風景

菅の獅子舞 (菅獅子舞保存会提供)

初秋の多摩丘陵に獅子が舞う！



本番に向けて一生懸命に練習！

昔に伝わる獅子舞が、薬師堂で9月16日に行われました。獅子舞は関東を代表する民俗芸能で、東京に83カ所、神奈川には12カ所で伝わっています。菅の獅子舞は1187年（文治3年）に、鎌倉時代の武将で当時の領主・稲毛三郎重成が薬師堂を建てたとき、子どもに獅子の舞を舞わせたのが始まりだそうです。その目的は五穀豊稔、天下太平、疫病退散などです。昭和37年に市の重要民俗芸能に、平成13年には県の無形民俗文化財に指定されました。

舞をするのは雄獅子（おじし）、雌獅子（めじし）、白獅子（きゅうじし）と天狗（てんぐ）の4人で、これを1人立3頭形式と呼びます。笛と唄に合わせ、胸の太鼓を打ちながら約1時間激しく舞う子どもたちの姿は大人顔負け。獅子頭の重さは約5キロと体力的にも厳しい中、何かあればすぐ側で待機する親獅子が代わりに舞います。昔は菅に住む家柄の良い農家の長男が舞っていましたが、最近は舞う大人を確保できず、数年前から子どもたちの育成が始まりました。まだ未熟ですが、一生懸命に練習を積んだ成果は、集まった観客の大きな拍手を聞けば、確実に表現できていることが分かります。多摩区の人にもっと知ってほしい、見てほしいと思います。

※佐保田五郎氏・編著「菅散歩(5)菅の文化財(下)」で菅の獅子舞が詳しく紹介されています。



住所：川崎市多摩区菅北浦4-16-2
交通：JR南武線・京王相模原線 稲田駅駅から徒歩10分

+ 活動 菅獅子舞保存会子ども教室



菅獅子舞保存会のメンバー

菅に伝わる由緒ある伝統文化民俗芸能を継承、保存するために平成18年に発足。菅地域で生活していれば、小学校4年生以上から希望者は入会できます。保存会の先生たちが指導します。練習は、原則として隔週日曜日の午後2時から4時まで行われ、費用はかかりません。現在、約30人が所属。

電話 044-944-7377 (菅獅子舞保存会会長 宇津木)

多摩区まちづくり協議会 まちづくり TOPICS

多摩区まちづくり協議会が内外で行っている
さまざまな活動の紹介や、身近なまちの情報
などを、トピックス仕立てでお届けします！

【まち協ホームページ】
<http://tamaku-machikyo.com/>

大盛況！多摩★まち大学 記事 辻野

多摩まち大学では、今回「ソーシャル・デザイン」に学ぶこれからの市民活動をテーマに、専修大学の徳田賢二教授をお迎えして講演会を開催しました。

暑さと昼間にもかかわらず参加者が定員の40人を超える中、ソーシャル・デザインの概念をやさしくひも解き、聴く人の胸にストーンと響く講演が展開されました。



多くの参加者を前に熱演する徳田賢二教授

プロジェクトメンバーを募集中！

多摩区まちづくり協議会では、活動をさらに盛り上げていくために、特定のプロジェクトに限定して参加していただける区民の方を広く募集します。自主的にまちづくりに関わってみたい方、地域デビューしてみたい方の応募をお待ちしています。

- 多摩の居場所ふらっと 世代を超えた交流のできる場づくり
- 多摩エコスタイル エコ意識の向上や区内活動団体つなぎ
- 研修企画部 まちづくり活動に役立つ学習会や交流会を企画
- 広報編集部 広報誌やホームページで多摩区の魅力を発信

参加したい方や詳細を知りたい方は、地域振興課まちづくり推進係までご連絡ください（連絡先は4面）。

多摩区に 新たな名産品が登場！

取材 大久保

商店街や地域の活性化につなげることを目的として、多摩区役所と専修大学、日本女子大学、区内の菓子店などが連携して、「かわさき宙と緑の科学館」のリニューアルオープンにちなんだ商品を開発、多摩区の新たな名産品として登場しました。専修大学と川崎市菓子協議会多摩麻生支部との連携によって商品開発された「宙からの贈り物」や、4面の「たまの顔」にも登場する米粉スイーツなど、皆さん、もう食べましたか？



新名産品・宙からの贈り物

Pro多摩エコスタイル 記事 石郷岡



「たまエコマップ」は身近なエコ活動を視覚化する便利地図

8月23日に多摩区役所1階アトリウムで開催の「夏休み！たまエコフェスタ」に参加し、「たまエコマップ」に多摩区のエコスポットを書いて貼ってもらいました。今回は多摩区役所食堂と三田小学校の2点の紹介がありました。

今後も区民祭などのイベントに参加して「たまエコマップ」に「1日1エコ活動」も加え、区民の皆さまとともに活動の輪を広げたいと思います。

Pro多摩の居場所ふらっと 記事 久野

8月から年末にかけては、サロンなどの活動が多くなり、世代交流が活発になります。最近では家族連れや中学生、友人同士などが参加したドライカレー作りのほか、夏休みには3カ所のわくわくプラザで、子どもたちとクイリングや折り紙のドラえもん作りを行いました。涼しくなる秋には、自然観察会や二ヶ領用水の散策などのサロンや、菅高校のボランティアメッセへの参加、高齢者向け健康講座も予定しています。



作ったドライカレーをみんなで食べる

まち協ホームページ 記事 河崎

広報編集部が担当する2つの柱のひとつがこの広報誌ですが、もうひとつがホームページの運営です。リアルタイムで最新情報をアップ。写真も豊富なホームページを目指します。また、動画にもチャレンジしていきます。

皆さんからの情報も随時受け付けていますので、どんどん活用してくださいね。誰もが楽しめるホームページを目指します。よろしく。



動画も見られるホームページ

明治大学の農産物 記事 本多

多摩の居場所ふらっとが7月に開いたコミュニティサロンでは、明治大学農学部黒川農場で栽培された旬の新鮮なトマト、ナス、キュウリなどを食材に、ドライカレー、ナスのアラカルト、野菜サラダなどを堪能しました。この農産物は毎週水曜日11時から明大裏門近くで販売されています。同大学生田校舎の圃場（ほじょう）では、講義を受け、農作業を行うなど、野菜を育てる喜びと農作業の苦勞を味わっています区民もいます。大学があり、農のある、多摩区ならではの取り組みです。



明大で農作業を行う区民（※圃場=畑や菜園のこと）

まち協がはじめた交流の場「多摩★まちCafe」 記事 石郷岡

9月26日（水）午後6時から多摩区役所で「まちで面白い活動をしている人の話を聴きながらお茶を飲んで人とつながる場」を目的とした、まち協の初企画「多摩★まちCafe」が開かれ、40数人が参加しました。今回のテーマは「環境」。区内で環境活動をしている5団体の報告を聞いた後、お茶とお菓子をつまみながら楽しくグループセッションを行い、意見交換しました。既に活動している方、またこれから活動に参加予定の方から「エコ活動は楽しみながら取り組み、情報交換してお互いに協力しましょう」との声を頂きました。



植物とコーヒーが作り出すいつもと違う空間で和やかに交流しました

わく多ま！ みんな、ありがとう！ 記事 久野 藤子・F・不二雄ミュージアム1周年

ドラえもん展示・折り紙・お面作りコーナーの担当として参加しました。乳幼児親子が途切れることなく訪れ、ドラえもんやドラミちゃんを作ろうと、1800人を超える入場者で大盛況でした。明治大学の学生と一緒に汗だくで子どもたちと折り紙をしましたが、忙しくも楽しい一日でした。



大人気の手作りコーナー

多摩区の歴史をたどる 見どころツアー 記事 木村

観光ボランティアガイドと一緒に、紅葉を眺めながら区内や周辺地域の歴史に触れるウォーキングツアーを開催します。いつもの景色が少し違って見えるかも。

[Aコース] 小沢城址とその周辺を歩く（※急な山道あり）
[Bコース] 登戸・向ヶ丘遊園周辺の身近な歴史を学ぶ

●日時 11/23（金・祝）[A] 9時～ [B] 9時半～
※小雨決行

各コース20人まで。申し込み方法などの詳細は、10/1発行の市政だよりをご覧ください。

参加費無料 要申込



昨年度のモニターツアー